

# 全労連支援対策本部ニュース

## 「能登半島地震」支援対策本部

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階  
TEL03-5842-5611 FAX03-5842-5620  
Email:soumu@zenroren.gr.jp

2024年1月30日

NO. 5

## 甚大な被害の輪島市/輪島朝市の惨状に唖然

全労連支援対策本部は、この間1月5日に石川入りし県労連幹事会に出席して対策協議を開始しました。その後6日には七尾市へ、14日には支援物資をもって能登町へ、そして26日には石川県庁へ義援金の一部を届けるとともに七尾市の恵寿総合病院、同労組の激励訪問をおこなってきました。今回は翌27日に、最大の被災地・輪島市に入り被害状況の視察と全日本民医連加盟の輪島診療所への激励訪問についてレポートします。



1月27日、石川県労連・長曾事務局長、支援対策本部・渡辺事務局長代行、全国災対連世話人の松井さんが最大の被災地・輪島市に入り、被災状況を視察しました。交通規制を考慮し、金沢市を朝6時に出発、震災から3週間を経て道路の整備も進み、3時間程度で輪島市街に到着できましたが、その先は片側通行で渋滞となり、輪島市内に入ったのは金沢を出発して3時間半後の10時過ぎでした。



市内に入ると今までの風景から一変しました。どこを見ても家の倒壊、揺れの凄さを示す斜めの電柱。その電柱が倒れ、家の屋根に倒れてる家、ある住宅はファンヒーターがそのままに。地震当時の揺れの凄さに驚き、着の身着のまま外へ。ここは元日の夕方から時間が止まったような状態でした。あちこちに「危険」という赤い貼り紙がありました。更に市内へ進むとテレビで大きく報道された倒壊した輪島塗「五島屋ビル」は今も変わらない姿のままです。



## 瓦礫と化した「輪島朝市通り」



被災者への水やブルーシートなど救援物資を配る駐車場入口前には、配布を求めて 20 台以上の車が列をなしています。

震災から 4 週間余り、断水状態のなかで避難を余儀なくされ、まだまだ日常には戻れない被災地の現状を垣間見ました。

最大の被害を受けた「輪島朝市通り」は瓦礫と化していました。あの 13 年前、2011 年の東日本大震災で見た、酒蔵「酔仙」の看板だけが残り、周辺は倒壊した建物ばかり、という、岩手県陸前高田市と同様な光景が目の前に広がっていました。



## 輪島診療所を激励訪問



朝市通りに先立って、全日本民医連加盟の輪島診療所を激励訪問しました。診療を続けているものの、訪問看護はできない状態にあります。生方所長から「診療所内の物品は散乱したが、建物被害はほとんどなく診療はすぐに再開できた」「本来なら避難所の被災者などを診て回ることが必要だと思っているが、道も街中も危険でなかなか動けず、ボランティアの受け入れについてもいま何をすればいいのか悩んでいるところ」と話されました。輪島の地域医療の一端を担う輪島診療所に対し、支援対策本部から見舞金を手渡しました。

## 加盟組合が中央会議で訴え、激励訪問が続く

自治労連は 1 月 26～27 日に開催した中央委員会で新屋石川県事務所委員長が、建交労は 1 月 27～28 日の中央委員会において東県労連幹事がそれぞれ支援要請を行っています。また 22 日には自治労連本部の小山副委員長と板山中央執行委員が、25 日には全日本年金者組合の杉沢委員長と木田書記長が、それぞれの県組織への激励に来られています(「石川県労連ニュース」より)。

## 能登の復興、住民が戻れ住める町づくりへ～石川災対連第 2 回会議開く～

石川災対連は 1 月 29 日に第 2 回会議を開催し、改めて石川災対連の再開を確認するとともに、2007 年の災対連結成時の 6 団体に加え、今回新たに石川県健康友の会が加盟したことを確認しました。また会議では各団体からのとりくみ状況が報告されるとともに、①各組織内での被災構成員の支援と県や政府への要望集約と要請、②国への要望については、災対連として「能登の復興、住民が地元に戻れ、住める町づくり」を求める骨太な要望書作成、③街頭募金のとりくみなどについて確認しました。なお次回の会議は 2 月 15 日に予定されています。